efpia
European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations

第4回　創薬力向上のための官民協議会
施策検討・推進部会





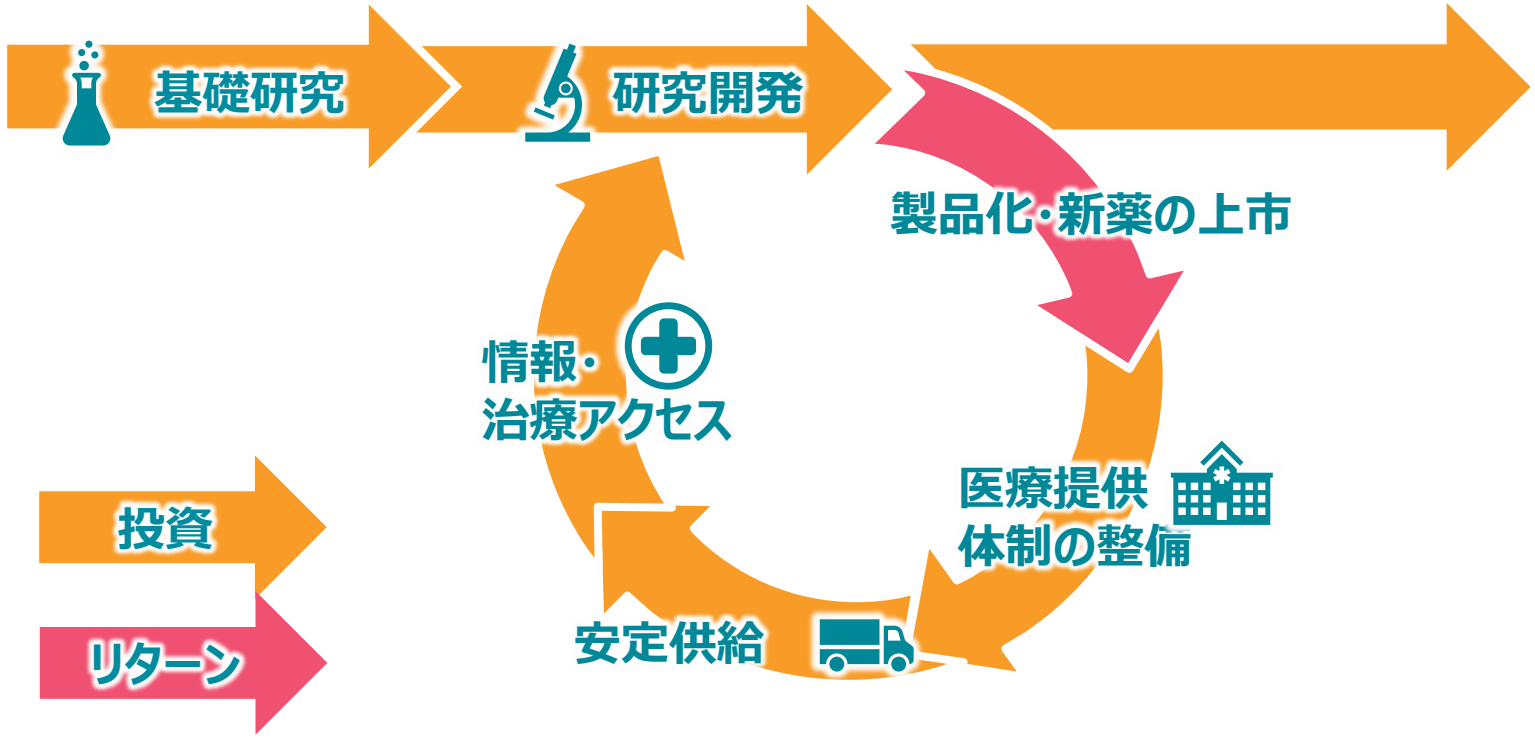



一般社団法人　欧州製薬団体連合会
EFPIA Japan

会長　ジョンポール・プリシーノ

継続的な投資により創薬エコシステムを循環させることが、患者さんの健康向上と経済成長の好循環実現のために必須

医薬品の創薬エコシステム



革新的医薬品の
経済リターン*1

€1 → €5.67

患者さんの健康

雇用創出

経済成長に貢献

*1: How innovation drives health and growth in Europe Research Report by EFPIA and Wifor Institute, June 2026

創薬エコシステムの循環を支えるためには、適切な初期薬価と特許期間中の薬価維持が必須

初期薬価

外国平均価格調整の見直し

①最高価格除外ルールの廃止

②引上げの2倍上限ルールの廃止

③参照国が1か国の場合も価格引上げの適用

④米FSS価格を参照価格として追加

⑤2番手以降の品目にも適用

初年度

+996~1,820億円*1

（うち国庫負担+249~455億円）

ピーク時

+6,638~12,137億円*1

（うち国庫負担+1,660~3,034億円）

特許期間中の薬価維持

市場拡大再算定および費用対効果評価の凍結

年平均

+1,220億円*2

（うち国庫負担+305億円）

5年累計

+6,100億円*2

（うち国庫負担+1,525億円）

*1:2021年1月より2025年12月までの間に薬価収載された270成分のうち、57成分において、初期薬価設定時の外国平均価格調整に関わるルールの見直しを行った場合に、対象となる品目のピーク時売上予測に与える財源シミュレーション。①＋②+③＋④、及び①+②+③＋④＋⑤のケースを算定。⑤に関して、全品目、PMP品のみ、又は有用性加算の適用を受けた品目のみが該当したケースをそれぞれ算出
初年度はピーク時の15%と試算

*2:市場拡大再算定:2020年度から2024年度に市場拡大再算定及び特例拡大再算定が適用された84成分（類似品含む）において、再算定が適用されなかった場合に5年間で追加的に必要となる金額のシミュレーション
費用対効果評価：2018年度から2024年度の累計にて費用対効果評価による医薬品価格の削減額を算出